

## ご遺族の皆様へ

当講座では機関長の許可を得て、下記の研究を実施しております。

本研究に関するお問い合わせ、また、協力を望まれない場合は、下記のお問い合わせ先にお申し出さいますようお願いいたします。これによって、故人、ご遺族に不利益が生じることはございません。

研究課題名 (研究番号)	薬物乱用の診断に有効な神経病理学的所見の免疫組織化学的検索
当院の研究責任者 (所属)	高山 みお (琉球大学大学院医学研究科法医学講座)
他の研究機関および 各機関の研究代表者	該当なし
本研究の目的	現在、社会問題である薬物乱用は、薬物規制等対策はとられているものの、インターネットなどからも簡単に手に入ることから、青少年への広がりが懸念されており、今もなお、覚せい剤や大麻ばかりでなく、危険ドラッグの関与が疑われる死亡例、交通事故、不審行動などがメディアなどでも取り上げられています。これまでの法医学解剖において、覚せい剤や危険ドラッグによる薬物中毒が死因となった症例を経験してきており、本研究では、それらの症例を用いて免疫組織化学的に染色を行い、神経病理学的にどのような変化が認められるのかを調べます。さらに、薬物乱用が、神経細胞等、中枢神経に与える影響を病理学的に示すことで、薬物乱用に対する啓発、社会貢献となるものと考えております。
研究実施期間	研究機関の長の許可日～2026年3月31日
調査データ(該当期間)	研究機関の長の許可日～2025年12月31日の期間の情報
研究の方法 (利用する試料・情報等)	<p>●対象</p> <p>研究機関の長の許可日～2025年12月31日までに琉球大学大学院医学研究科法医学講座解剖法医学棟にて解剖をうけた方のうち以下に該当する方を対象といたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物乱用群として、             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 覚醒剤・麻薬・大麻・危険ドラッグ等の関連症例</li> <li>② 向精神病薬関連症例</li> <li>③ 処方薬や市販薬の過量服薬症例</li> </ol> </li> <li>・対照症例として、薬物乱用のない             <ol style="list-style-type: none"> <li>④ 内因死症例（心筋梗塞、肺炎等）</li> </ol> </li> </ul> <p>●利用する試料・情報</p>

	<p>法医解剖において、採取した検体および検査結果を利用させていただきます。</p> <p>試料：脳組織</p> <p>情報：年齢、性別、死因、基礎疾患、死後経過時間</p> <p>法医解剖に伴う各種検査項目（死因診断のため、必要に応じて複数項目の検査を行う）：①組織学的検査、②アルコール検査、③細菌検査、④ウイルス検査、⑤一酸化炭素検査、⑥簡易薬物検査（簡易検査キット）、⑦薬毒物定性検査（分析機器検査）、⑧薬毒物定量検査、⑨精液検査、⑩血液生化学検査</p> <p>を使用します。</p> <p>脳組織は、少なくとも本研究の終了報告から5年を経過した日または、本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、研究対象ではない他の法医解剖症例と同様のブロック標本の状態で保管します。</p>
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	該当なし
試料・情報の二次利用	本研究で取得した試料・情報の利用は、本研究のみに限ります。二次利用は行いません。
個人情報の取り扱い	本研究は、琉球大学 人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査委員会の管理下で、個人が特定されないように匿名化したうえで行います。対象者の情報は当該対象者と関わりのない解剖番号が割り当てられ、年齢と性別、死因、基礎疾患や死後経過時間、また、研究成果の取りまとめに当たっては、必要に応じて、各種検査で得られたデータを使用します。研究対象者を特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	文部科学省科学研究費（2022年度採択）にて行います。本研究は各研究機関の利益相反手続きに従い、必要事項を申告し、その審議と承認を得ています。
お問い合わせ先	<p>機関名：琉球大学大学院医学研究科法医学講座</p> <p>担当者：高山 みお</p> <p>電話番号：098-895-1141</p> <p>メールアドレス：mtaka@med.u-ryukyu.ac.jp</p>
備考	